

## 秋の市外学習

島 節 子

目のさめるような日本晴れに恵まれた秋の日、吉野ヶ里遺跡と佐賀城を訪ねての一日学習は、数日たった今、想い出してみても何かしら満足感が残る。

吉野ヶ里遺跡には、社会見学に来ていた小学生達の元気な「こんにちは」という声に私達も「こんにちは」と返事をする。明るく清々しい気持ちにさせてくれた。

工業団地計画予定地から発掘されたという広大な集落地の数々の貴重な発掘物に驚かされた。何よりも魏志倭人伝に書かれている卑弥呼の集落と同じ作りであるという。もしかしてそうなのか？と思わせる。

弥生時代は、土器の発達が盛んだったと思っていたが、銅剣やガラス製の勾玉などその時代にはもうすでにあっただ。

青銅器や木製品にいにしえ人の生活を想像しつつ興味深く観覧させてもらった。

もつと時間があればゆっくりと見学したい所であった。

昼食後に佐賀城へと向かう。ここで驚いたのはお城といえは階段を登ることばかり考えていた私は意にもかけぬ、横に続くお城は初めてで、長く続く廊下や、質素なお殿様の生活をボランティアガイドさんの楽しい説明の中に垣間みた。

江戸時代という戦争の無い時代のお城には城壁などいらないう事、もし作ったとしたら、にらみをきかず徳川幕府が怖いという事だそうだ。

今まで思っていたお城のイメージはくつがえされ、親しみさえ感じた。何といっても階段を歩かなくて良いお城は足を痛めてる私には嬉しかった。

帰りのバスで横に座る合唱好きな三重野副会長と共に皆さんと懐かしい秋の歌を歌って、楽しいバス旅行を締めくくるはずだった。しかし別府住民で歴史の会の皆様に紹介したい歌があった。それは「瓜生島」という歌である。二十数年前に発表した混声合唱団クールあおやまのオリジナル曲で

作詞は工藤はつみ氏、

作曲は今は亡き野崎哲先生

の歌である。私はこの素晴らしい歌をあらゆる場で皆さんに紹介している。

「瓜生島」

昔も昔 今から四百年も前のことじゃ  
別府の海にはなあ

瓜生島という島があったんと  
えべっ様が守り神 平和な平和な漁師町  
ある日 島の悪太郎 いたずらついでに

事もあろうに 事もあろうに  
えべっ様ん顔に べんがら塗った  
さあさ それがどうしたんと  
まあ待つちよくれ

お茶を一口飲ませちよくれ  
こん島に語り継がれた話があるんじゃ  
えべっ様ん顔が赤おなると

島が沈むというこつちや  
何え あんた えれえこつちやねえか  
まあ黙つて聞いちよくれ  
村ん衆はたまがつち  
オーイ大変だ 大変だ 大変だ

えべっ様ん顔が赤けえぞ  
島が沈むぞ 島が沈むぞ 逃げろ 逃げろ

そのうち 海鳴り地鳴りが続く

由布岳 鶴見は火を吹いち  
あとは津波だ 津波だ

何もかもあるかえ 何もかもあるかえ  
一人残った悪太郎

せせら笑おち言う事にや  
こん島はわし一人のもんじゃ

迷信なんか あてにせんぞ  
とうとう沈んでもうた瓜生島 瓜生島

今も風ぎん時にや あんた  
別府湾に出ちごらん

瓜生島が呼ぶようじゃ



佐賀城鯨の門前にて